



Webデザイン実習3B

2019/6/17

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

作るもの

- パララックス的な動き
 - パララックス的な動き＝スクロールに連動してコンテンツが変動する
 - 普通のスクロールと異なり、背景画像が変化したり、他のものが動いたりする
 - スクロールで物語性を持たせる、というもの
- 最近では
 - 少しだけテイストを利用するなど、全面的に使う例は少ない
 - 1ページサイトと兼ね併せて利用している例が多い
 - Mac Pro（ゴミ箱）のサイトとか

パララックス

- 視差
- 二次元上で遠近感を出すための仕組みとしてWebデザインでは普及
 - 奥行きを出すために手前を早く動かしたり、後を遅く動かすことで奥行きを醸し出す
 - 背景画像だけを入れ替えてコンテンツを変えるなどもパララックスの一種とされている
 - 結構プラグインがあるが、実装または使うとなると意外と面倒な点が多い

作るもの

- スクロール連動
 - スクロールに連動してオブジェクトが移動する

スクロール位置の取得

```
$(window).on("scroll",function(){  
    pos = $(window).scrollTop();  
});
```

- windowオブジェクトをスクロール
 - 要するにスクロールバーを動かしたら、ということ
- \$(window).scrollTopでスクロールバーの上側位置を取得できる

横に動かす

- スクロールバーを動かすことで、上からのスクロールバーの位置が取得可能
 - 画像などのオブジェクトを貼り付けておいた場合、これを元に横に動かす方向に変えることも可能
- `position:fixed`を指定することで、自由な位置に配置が可能になる
 - `fixed`を指定することで、スクロールしても縦位置は同じ場所に居続けることが可能
- `left`と`top`値を変更すると横に移動が可能
 - `right`値でも問題無い

オブジェクトを動かす

- 自由に動かすならposition:absolute指定をしておく
 - leftやtop値で自由に動かすことが可能になる
 - ほかのオブジェクトに影響を及ぼさない
- 直線運動であれば、スクロールバー連動でOKだが、回転運動をさせたい場合は、SinやCosを利用する
 - Math.sin, Math.cosを利用
 - どちらもラジアンを指定することに注意
 - ラジアン = 角度 * Math.PI / 180
 - SinにしてもCosにしても得られる値は何を突っ込んでも-1~1の値

大きさを変える

- 場合によっては遠近感を出すために大きさを変えるとベター
 - CSS3のtransformプロパティで指定可能
 - transform:scale(0～の値) で拡大、縮小
 - transform:rotate(0～の値「角度」) で角度
 - transform:skew(0～の値「角度」) で傾斜
 - 今のところ一部のブラウザーだけサポートしているが、ぼかしなどのエフェクトも利用可能
 - filter:blur(ぼかし半径)
 - -webkit-filter , -ms-filter